

平塚江南高等学校 創立100周年記念式典に寄せて

5月13日に本校の創立100周年記念式典が、ひらしん文化芸術ホールで開催されます。修学旅行や文化祭等の学校行事全般と同様に、このコロナ禍での開催にあたってはいろいろな課題がありました。特に新型コロナウイルスの感染拡大については、1月の修学旅行直前のときがそうであったように、しばらく感染がおさまっている間にウイルスが変異して、突然爆発的に感染拡大が起きるというパターンがあります。オミクロン株による新規感染者数は減少しているとはいえ、現在も週に1~2名の生徒が新規に感染する状態ですから、決して油断できません。今回の記念式典は、本来ならば100年の集大成として盛大に開催したいところですが、いつでもオンラインでの開催に切り替えられるよう、規模を縮小して準備してきました。なんとか対面式で開催できそうで、ホッとしています。

さて、本校の歴史をひも解くと、1921（大正10）年に「平塚高等女学校として開校」とあります。同時期には現在の商工高校や湘南高校、小田原東高校などが開校していますが、この時期にはそれまで少なかった中等教育を行う学校が、本県のみならず日本全国で次々と開校しています。また、東京では羽仁もと子らにより自由学園が、西村伊作、与謝野鉄幹らにより文化学院が設立され、国の教育政策に依らない自由な私学教育が始まっています。

元号で時代を区切ることについてはいろいろな意見がありますが、本校などが開校した大正時代というのは、それまでは生まれた環境（門閥）によってその後の社会的地位がほぼ決まっていたのに対して、学歴（業績）が社会的地位に結びつく傾向が強くなった時代と言われています。中等教育機関の新設は、そんな大正時代を象徴する出来事でもあったわけです。

ここで、1年生は「歴史総合」の、2,3年生は日本史の教科書を開けて、この大正時代頃のことが書いてあるページをみてください。「大正デモクラシー」であるとか、「社会運動」であるとか、「第1次世界大戦」であるとか、そんな用語が目立ちますね。歴史年表で1921年前後をみると、たとえばその当時の総理大臣は平民宰相と言われた原敬（はらたかし）で、初めて爵位を持たず、明治時代の藩閥政治との関係が薄い政治家でした。しかし、立憲政友会という政党の党首として軍拡路線に反対していた原敬は、1921年に東京駅で刺殺されます。

またその少し前の1919年には、第1次世界大戦の戦後処理のためにベルサイユ会議（パリ講和会議）が開催され、日本はアメリカ、イギリス、フランス、イタリアと並んで重要事項を審議する五大国の一つとなり、一気に国際政治の表舞台にデビューしました。第1次世界大戦は日本経済に空前の好景気をもたらし、国内産業の重化学工業化や輸出の飛躍的拡大、財閥の形成が進みます。その一方で労働運動も盛んになり、1920年には日本初のメーデーが上野で開催され、1921年には労働組合の全国組織である日本労働総同盟が結成されています。また、「青鞥」を発行した平塚らいてうと市川房江らが1919年に新婦人協会を結成し、女性運動も高まり始めました。1922年には京都で水平社結成の宣言が発表され、被差別部落の解放運動にも一つの画期が訪れています。同じ年に土地を持たない小作農民の運動により、全国農民組合が結成されています。そして新聞の発行部数が飛躍的に増えて、それらのニュースが全国に伝わるようになりました。

100年前、神奈川県立平塚高等女学校は、そのような社会情勢の中で開校したのです。